

情報提供

施設長 各位

那覇市医師会
会 長 山城千秋
担当理事 宮城政剛



「新型コロナウイルス感染症」関連資料の提供について

平素より医師会事業へのご支援ご協力賜り感謝申し上げます。

那覇市保健所・仲宗根所長より「沖縄県疫学・統計解析委員会」からの報告事項をご提供いただきましたので下段にてご報告致します。

☆ 問合せ先(那覇市医師会 事務局:前泊・上原 / 電話 098-868-7579)
.....記.....

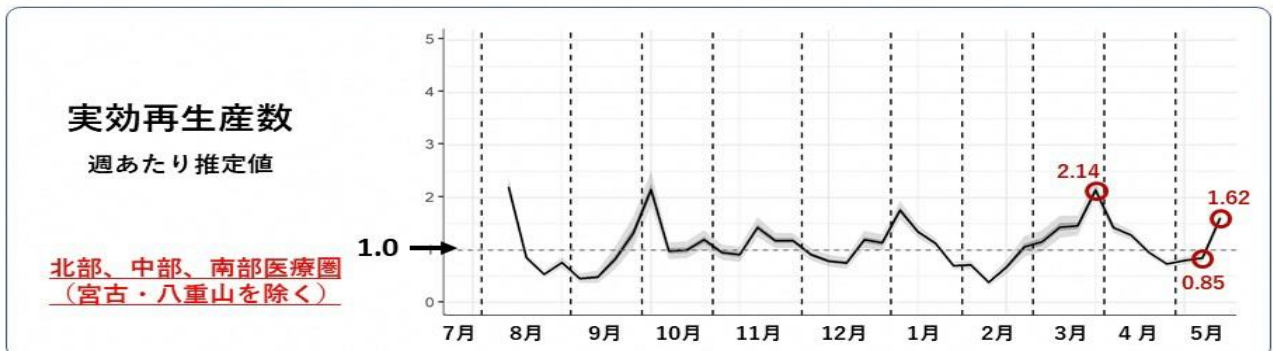
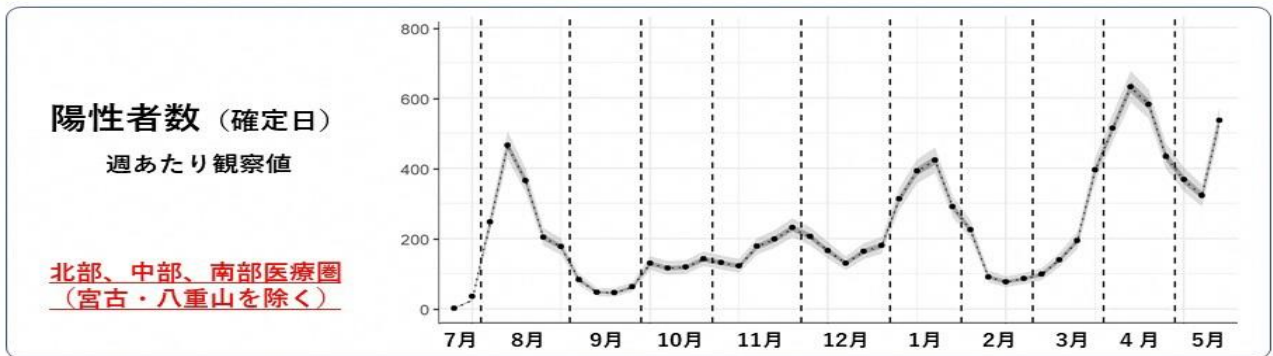
◎ 沖縄県疫学・統計解析委員会から【現状】と【推定】と【解説】をいただきましたので、ご報告致します。(取扱注意でお願いいたします。) 【那覇市保健所 所長 仲宗根 正】

【現状】

沖縄県では、先週(5/10-5/16)の新規陽性者数は800人(前週453人)でした。沖縄本島(周辺離島を含む)における週あたりの実効再生産数(R)は1.62(95%CrI:1.50, 1.74)であり、前週の0.85から横ばいです。ただし、連休中は受診できる医療機関が限られたため診断される陽性者数が少なかったと考えられ、その翌週であった先週は相対的に増加したものと考えられます(図1)。

世代別では、20代が最多で225人(28%)であり、前週の123人よりも倍近く増加しています。次いで30代が162人(20%)であり、20代と30代で全体の半数を占めています。一方、65歳以上の高齢者45人(6%)と前回の77人から大きく減少しました。75歳以上の高齢者は22人(3%)で、高齢者施設の入居者における感染事例は2例のみでした。大型連休において、活発な若者たちが感染したものと考えられます。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数(北部、中部、南部)



医療圏別では、北部 36 人（前週 12 人）、中部 181 人（前週 121 人）、南部 187 人（前週 125 人）、那覇市 294 人（前週 140 人）、宮古 23 人（前週 21 人）、八重山 69 人（前週 24 人）でした。県外からの渡航者は 10 人で、その内訳は、大阪府 3 人、京都府 2 人、東京都、愛知県、滋賀県、兵庫県、福岡県 1 人でした。

市町村別では、多い順に、那覇市 294 人（前週 140 人）、石垣市 66 人（前週 24 人）、浦添市 55 人（前週 20 人）、沖縄市 48 人（前週 14 人）、宜野湾市 47 人（前週 26 人）、うるま市 41 人（30 人）でした。多くの都市圏で急速に陽性者数が増加していますが、とりわけ那覇市で大きな流行が始まっています。いずれも重点措置の対象地域ですが、感染が抑止できなくなっています。

先週、変異ウイルス（N501Y）を同定する検査が実施されたのは 165 検体で、このうち 88 検体が N501Y 陽性で、陽性率 53%（前週 59%）と初めて減少しています。医療圏別では、宮古、八重山、南部の多くで N501Y 変異を認めている一方、中部のほとんどが従来型です。

先週末（5 月 16 日）の入院患者は 299 人（5 月 2 日 249 人）と急速な増加に転じています。このうち、酸素投与など中等症患者 214 人（5 月 2 日 193 人）、気管挿管など重症患者 10 人（5 月 2 日 10 人）でした。

【推定】

大型連休の影響により陽性者数が増加していますが、今週からは、その二次感染の波が重なってきます。若者から高齢者へと感染が拡大し、重症化する感染者が多発する可能性があります。

ただし、梅雨入りとともに渡航者の数も減少しており、感染拡大の勢いは鈍化するものと考えられます。陽性者数が減少へと転ずるかどうかは、20 時までの時短営業が徹底できるかなど、重点措置の実効性を取り戻せるかにかかっています。

今週（5/17-23）の新規陽性者数は 800-1000 人と推定します。今週末の入院患者数は 330-380 人と増加が見込まれますが、急性期治療の病床確保が困難なレベルとなるため、実際には自宅療養で酸素投与が行われるなど、入院できない中等症以上の患者が発生することが想定されます。気管挿管等が行われる重症患者数は 13-16 人と見込まれます。高齢者施設における集団感染が重なった場合には、これらを大きく上回る可能性があります（図 7）。

図 7 今後 1 週間（5月17日-5月23日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療圏別入院率； 沖縄県
年齢群別重症化率； 厚生労働省
平均期間（入院・重症）； HER-SYS

実効再生産数	新規陽性者数（確定日）			入院患者数 [※]			重症患者数 [※]		
	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
北部	17.9	36.0	72.5	22.3	24.4	27.7	0.2	0.3	0.5
中部	107.8	217.0	437.0	71.4	88.0	115.1	3.3	3.9	4.9
那覇市	137.6	277.0	557.8	78.9	95.6	122.8	5.2	5.9	6.9
南部	91.9	185.0	372.5	66.5	77.3	94.8	1.7	2.2	3.0
宮古	9.4	19.0	38.3	8.9	10.1	12.0	0.1	0.2	0.3
八重山	31.8	64.0	128.9	27.0	30.7	36.6	0.4	0.5	0.8
合計	396	798	1607	275	326	409	11	13	16

※ 5月23日時点の見込み数

解析担当：水本憲治、大森亮介、島川祐輔

【解説】

沖縄県では、4月の流行（第4波）が終わらないうちに大型連休による流行が重なっています。那覇市や石垣市など変異ウイルスへと置き換わりが進んでいる地域では、とりわけ急速に感染拡大が進んでいます。おそらく、これまでで最大の流行になると見込まれます。

現在の流行は若者中心ですが、今後、高齢者へと移行してゆき、重症者が多発する可能性があります。重症化リスクがあつたとしても入院することは困難となり、自宅療養のまま酸素吸入やステロイド投与が行われることも想定する必要があります。

できるだけ重症者のための病床を確保し、在宅死を減らすためにも、さらなる感染拡大を防ぎ、とくに高齢者を守っていくことが必要です。

1) 高齢者施設の感染対策について

高齢者施設では、マスク着用や手指衛生など基本的な感染対策を徹底するとともに、原則として、施設内での面会をすべて中止としてください。ただし、入居者の外出については、屋外の散歩程度であれば制限する必要はありません。

介護職員に発熱や咳などの症状があれば必ず休ませ、新型コロナウイルスの検査を行っている医療機関を受診させてください。入居者に発熱や咳などの症状を認めるときは、かかりつけ医に相談するなどして、必要な治療を開始するとともに新型コロナウイルスの検査を早めに受けさせてください。

症状を認めるのであれば、迅速に結果が得られる抗原定性検査が有用です。集団感染となった施設の多くが、複数の発熱者が出ているにもかかわらず、しばらく様子を見て対策を行わなかったことがありました。とくに、現在のように地域流行が発生しているときは、発熱、新たな咳など体調不良を認めるときは、躊躇せず速やかに検査を実施することを強くお勧めします。

また、沖縄県では、高齢者施設の職員を対象として、2週間に1回のスクリーニング検査を実施しています。市町村ごとに準備状況に違いがありますが、できるだけ手上げをしていただき、少なくともワクチン接種が終了するまでは検査を受けるようにしてください。

2) 変異ウイルス（N501Y）への感染対策について

全県的に変異ウイルスが流行しているわけではありませんが、那覇市、宮古島市、そして石垣市は、ほぼ変異ウイルスに置き換わったと考えられます。

変異ウイルスと言っても、感染経路は従来のウイルスと同じであり、とるべき感染対策も同じです。ただし、その感染性は高まっているので、これまで以上に感染リスクのある行動を減らし、あるいはリスクある状態にある時間を短くしていく必要があります。

すなわち、人が集まる場所ではマスクを着用するだけでなく、なるべく人ごみ自体を避けてください。また、公共のモノに触れたあとは手指衛生を心掛けますが、そもそも公共のモノに触れないで済むようにします。会食についても、マスク会食であるとか、4人以下であるとか、リスクを軽減する考え方よりは、そもそも同居する家族など固定された親しい人に限定することが必要です。

そして、とくに心がけていただきたいのは、発熱や咳などの症状があるときは外出を控えるということです。ウイルス変異があるかどうかに関わらず、一人ひとりが、新型コロナウイルスに感染しないようにすること、感染させないようにすることが大切です。

そして、ワクチン接種を急ぐことです。イギリス型の変異ウイルスに対して、現在接種が進められているファイザー社のワクチンは有効です。大きな流行にさらされた欧米諸国においても、ワクチン接種率が高まるとともに、流行が沈静化してきています。

高齢者、そして介護従事者を守っていくことは、被害を最小化し、医療ひっ迫を回避することに貢献します。市町村だけでは限界があるため、都道府県、医師会、地域住民も協力して、接種を推進していくことが必要です。以上です。